

I 自然環境 Description of the study area

1. 位置 Location

北谷町は沖縄本島中部圏の南に位置し、東西約 4.3km、南北 5.9km とほぼ長方形を呈している。町界は、北は嘉手納町、東は島のほぼ中央を境として沖縄市と北中城村、南は宜野湾市に接している。西は東シナ海に面している。

町西部の海岸低地には、南部の那覇市と北部の名護市を結ぶ主要幹線道路である国道58号線が

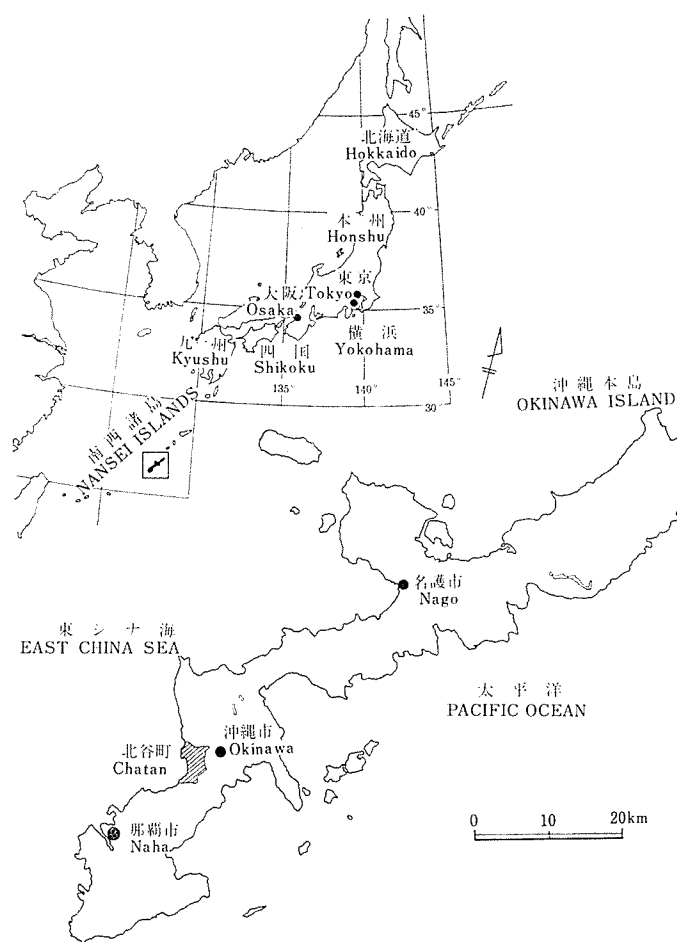


Fig. 1. 調査地域位置図。

Geographical location of Chatan-cho, Okinawa Prefecture.

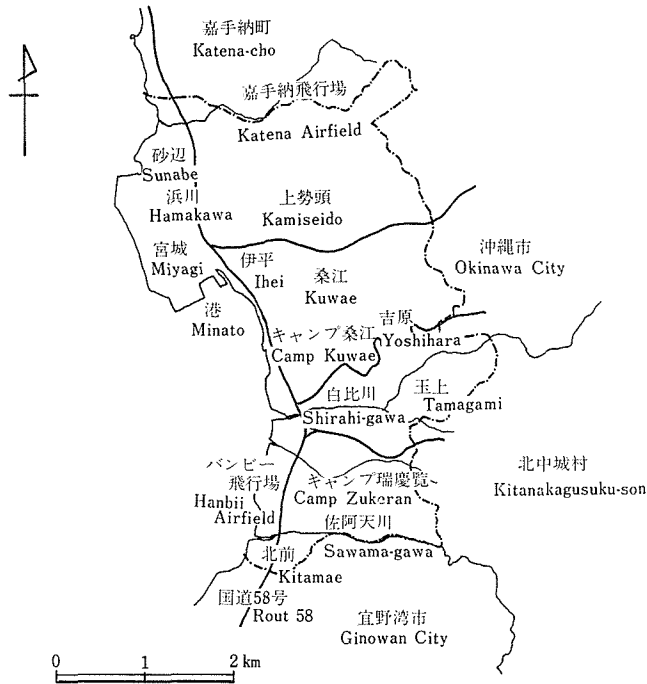


Fig. 2. 北谷町の地域区分。
Regional divisions of Chatan-cho.

Table 1. 沖縄本島の気候表（那覇における月別平年値）
Climatic table by monthly normals of Okinawa Island (Station-Naha:
26°14'N, 127°41'E. 35 m above the sea)

月Month	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	年
气象要素 Meteorological parameters	Jan.	Feb.	Mar.	Apr.	May	Jun	Jul.	Aug.	Sep.	Oct.	Nov.	Dec.	Ann.
气温(°C) Temperature													
平均气温 Mean temperature	16.0	16.4	18.0	21.0	23.7	26.1	28.1	27.8	27.1	24.3	21.3	18.1	22.4
最高气温の平均 Mean maximum temperature	18.6	19.1	20.9	23.9	26.5	28.8	31.0	30.6	29.9	27.0	24.0	20.8	25.1
最低气温の平均 Mean minimum temperature	13.7	13.9	15.6	18.6	21.4	24.0	25.9	25.6	24.9	22.0	19.1	15.8	20.1
相对湿度(%) Relative humidity	70	73	75	79	83	86	81	82	79	75	72	70	77
降水量(mm) Precipitation amount	119.6	117.9	143.9	168.1	248.9	292.6	192.6	260.1	166.4	186.2	141.7	116.5	2128.2

1951—1980平均, Mean value for the year period 1951~1980

通っている。また北谷町は県道 23・24・130 号線によって中部の沖縄市とも結ばれており、重要な交通路の要所となっている（北谷町 1982）。

2. 気 候 Climate

沖縄本島中南部に位置している北谷町の気候は、南部の那覇市の年平均気温と近似した 22°C を示し、年較差の小さい四季の変化の不明瞭な亜熱帯性気候に属している。気温は 1 月から 2 月と 7 月から 8 月にかけて、それぞれ最低（8~10°C）、最高（32~34°C）を示している。

降水量は梅雨季の 5~6 月と台風の影響する 8~9 月の年 2 回のピークがみられる。また年降水量は 1,500~1,800mm と沖縄本島の他地域に比較して 200~400mm 程度少ない。夏季は南東季節風が、冬季には北西季節風が卓越している（北谷町 1982, 気象庁 1982）。

3. 地 形・地 質 Topography and geology

北谷町の地形は、町西部の東シナ海に沿った海岸低地と比高 40~120m のなだらかな台地、丘陵の発達する東部から構成されている。周辺市町村との行政境界となっているこれらの台地、丘陵面は西の海岸低地に向って傾斜している。台地と海岸低地の接する地域では、所々那覇石灰岩（琉球石灰岩）の露頭のみられる急崖が形成されている。また町の南部を東西に流れる白比川上流域の玉上地区では侵食崖の発達した開析谷がみられる（新納 1973）。

町内に分布する地質は、新第三系の島尻累帯に属している那覇層群の砂質シルト層、シルト質



Fig. 3. 北谷町北部の海岸線にみられる隆起サンゴ礁（砂辺）。

A typical raised coral terrace near the shoreline in northern Chatan-cho (Sunabe).

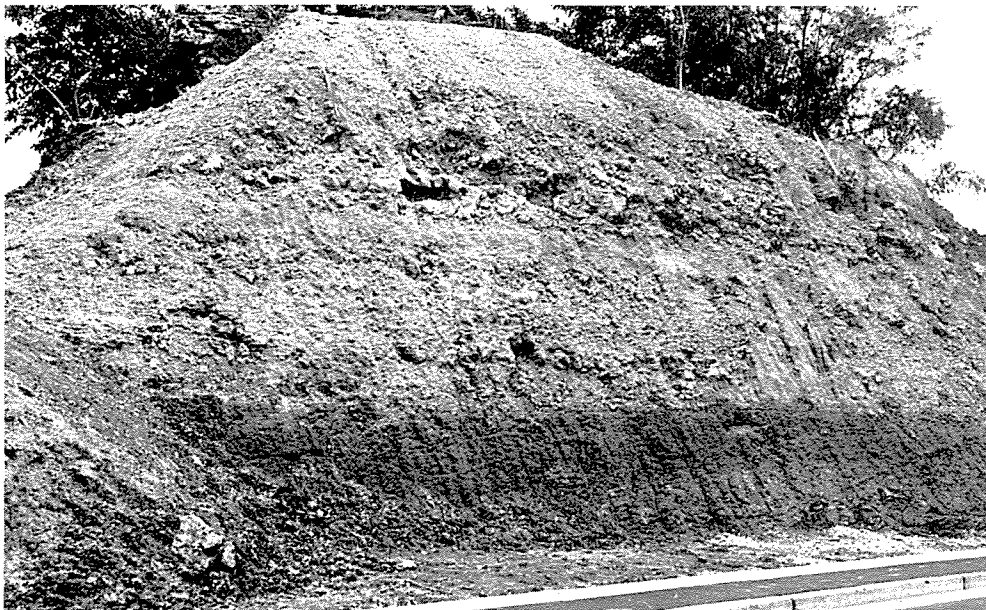


Fig. 4. 台地，丘陵面を覆う那覇石灰岩（琉球石灰岩）層の露頭（吉原）。
An outcrop of Ryukyu limestone, such as cover most plateaus and hills in Chatan-cho (Yoshihara).

砂層，砂層，那覇石灰岩，海浜堆積物からなっている。これらの地質のうち，砂質シルト層とシルト質砂層は白比川上流の台地基部にみられる。砂層は桑江，吉原以北の台地，丘陵の所々に分布している。これらの地層を基盤として，台地，丘陵の大部分は那覇石灰岩に覆われている（石井 1973）。

4. 土地利用 Land use

北谷町の総面積（13.2km²）の約60%が米軍軍用地に接収されていることもあり，町産業の発展の大きなさまたげになっている。とくに農畜産業はふるわず，耕作地の宅地転用など最近，都市化の傾向が強まるに伴って年々耕作地が減少している。

昭和56年現在，耕地面積は約3.8km²で，玉上，上勢頭の台地，丘陵面，桑江，砂辺の海岸低地などにまとまった耕地がみられる。そのうち2.4km²は，軍用地内の黙認耕作地である。これらの耕作地の83.4%はサトウキビ畑で，残りはサツマイモ（4.4%），根菜類（5.6%），葉菜類（3.9%），果菜類（2.7%）などの作付が行なわれている。北谷町は戦前，米の生産地として有名であったが，戦後の軍用地建設やその拡張により，すべての水田は，埋立，造成されてしまい，現在では町内に水田はほとんど残されていない（北谷町 1982）。

町内の畜産業として養鶏，養豚などがみられるが，いずれも経営規模は零細である。水産業は，港に建設された漁港を中心として小規模ながら行われている。また宮城の海岸埋立地の一部では



Fig. 5. 桑江にある米軍住宅施設。北谷町の総面積の約60%は米軍用地となっている（桑江）。

A residential quarter for the American military. Over 60% of the town area was requisitioned by them (Kuwae).



Fig. 6. わずかに残された土地を利用して作られた畑地。周辺には住宅が密集している（桑江）。

Small plot in a densely built-up area, used as vegetable gardens (Kuwae).



Fig. 7. 白比川上流の琉球石灰岩からなる丘陵斜面部に残存するオオバギーアカギ群集の相観（玉上）。

Remaining forest of the *Macaranga-Bischoffietum* on steep slopes of Ryukyu limestone near the upper course of the river Shirahi-gawa (Tamagami).

クルマエビなどの養殖が行なわれていたこともある。

北谷町の産業形態は小売業、サービス業などの第三次産業が主体となっている。また交通の要所にあることから、近郊都市のベッドタウンとしての色彩が強まってきている。とくに宮城の海岸埋立地、上勢頭の県道23号線ぞいでは、近年宅地造成が盛ん行になわれている。1981年に返還されたハンビー飛行場以北の海岸地域は、北谷町発展のための埋立予定計画地となっている。

5. 植物相および植生の概観 Flora and vegetation

沖縄本島の植生は地形、地質的な相違を反映して、本島中南部の天願—知花—嘉手納—残波岬を結ぶ線の南北で異なっている（鈴木 1979, 木崎 1980）。すなわち北部には国頭マージとよばれる非石灰岩質の赤土土壤が分布し、そこにはスダジイ、イジュ、ヤマモモなどいわゆる国頭要素の植物が生育している。一方中南部ではこの赤土土壤はほとんどみられず新生代の琉球石灰岩が広く分布しており、そこにはアカギ、オオバギ、ヤブニッケイなどのいわゆる島尻要素の植物が群落を構成している（新納 1963）。

本島の中南部に位置している北谷町の植生の大部分は、琉球石灰岩地の植物群落によって占められている。南北の境界線に近い上勢頭や吉原など非石灰岩の土壤のみられる台地、丘陵斜面にはイジュ、ヤマモモなど国頭要素の植物を伴った森林植生が生育している。



Fig. 8. 琉球石灰岩上に発達するオオバギーアカギ群集の主要な構成種であるオオバギの外観（伊平）。

Leaves of *Macaranga tanarius*, a characteristic species for the *Macarango-Bischoffietum* (Ihei).



Fig. 9. 町内にみられる御嶽には、自然豊かな森が残されている（砂辺）。

Natural or semi-natural forest in the precinct of Utaki (Sunabe).

北谷町の植生の大部分は、太平洋戦争末期の戦火や戦後の軍用地建設にもなった土地造成、伐採などの人為的破壊によって二次的に生じたリュウキュウマツ林、ギンゴウカン群落、ノアサガオ群落などの二次林・低木群落、ススキ、チガヤなどの草本植物の優占する二次草原、サトウキビ畑地に生育する畑地雑草群落そして軍用地内に広がる人工シバ地や街路樹などの緑化植栽地からなる代償植生によって占められている（新納 1973）。

町内にみられる残存自然林は小面積ながら、御嶽、御願所、古い墓所、城跡などのある琉球石灰岩の露呈した急斜面や泥灰岩質の土壌の堆積した崖錐斜面に生育している。とくに上勢頭の丘陵斜面、白比川上流域の開析谷ぞい、普天間川（佐阿天川）ぞいの崖錐斜面、北谷城跡のある台地北斜面には比較的広面積で自然性の森林植生が発達している。このほか自然植生として海岸ぞいにアダン、クサトベラ、グンバイヒルガオの生育した海浜植生、ソナレシバ、オオウシオツメクサのみられる塩生植物群落そしてコウライシバ、イソフサギの生育する海岸隆起サンゴ礁植物群落などが桑江や砂辺の海岸に分布しているが、近年の海岸線の埋立、造成によって、これらの群落は小面積かつ断片的な状態となっている。